

一般質問発言通告書

発言順位 9番

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和6年 11月 26日

三島市議会議長 堀江 和雄 様

三島市議会議員 2番 沈 久美

| | |
|---|-------------------------|
| 質問事項1 | 壮年期の社会復帰。無理のない確かな歩みのために |
| 具体的内容 | |
| <p>壮年期（40～64歳）の心理社会的危機は「停滞」といわれ、子がいななど次世代への関わりがない、あるいは関わりが薄い場合、停滞感や自己中心的な感情が生じやすいようです。</p> <p>壮年期のちょうど真ん中にある50代に焦点をあてると、未婚率は男性が28.25%、女性が17.81%といずれも過去最高となっています。自らの命をあきらめてしまう人が最も多い年代であり、8050問題もあります。離職率では50代女性の10人に1人が自己都合で離職しているというデータもあり、転職は難しいという現状。介護、ストレス、傷つき体験、体調不良などからいったん離職すると社会に出にくくなる事例、家にとじこもりがちになるうちに精神疾患等に陥る事例、そして悲しい末路の事例も全国的には多発と言える状況です。</p> <p>50代を中心とした壮年期の「社会復帰への意欲」をしっかりと支え、さまざまな障壁を乗り越え自立に向かって確実に歩んでいける支援体制づくりについて伺います。</p> | |
| 1 壮年期の「ころ・くらし・家族（親子関係）・障がい」に関する相談状況について | |
| 2 生活について（障害年金の周知／社会保険労務士との連携等） | |
| 3 住居について（市営住宅と新住宅セーフティネット／住宅政策と福祉政策の関係性等） | |
| 4 無理なく「休む・準備する・働く」社会復帰へのネットワーク型支援体制について | |
| 質問事項2 | 幼児教育の今後について |
| 具体的内容 | |
| <p>5年を1期とする「三島市子ども・子育て支援事業計画」の第3期開始を来年度に控え、次の5年についてさまざまな調査に基づいた計画の策定作業が進んでいるものと思われます。</p> <p>三島市の子どもを取り巻く状況は第2期に比べどのような変化があるのでしょうか。注視したいところです。中でも公立幼稚園については、保育園ニーズの増大傾向に伴い、その多くが定員割れの状態にあり、ファシリの対象であるとともに、採算性も課題です。時代の流れと見る向きは否定できませんが、存続を求める地域・保護者の声は依然としてある中、集約化・複合化、あるいは廃止や民営化も含め、方向性の決定に対する注目度は高いといえます。</p> <p>幼稚園は学校であり、みんなの学びの場です。近年、幼児教育の重要性が見直され、公立幼稚園の価値も再認識されつつあります。以上のような現状をどのように捉え、いかに計画に反映させていくのか。三島市の幼児教育のさらなる充実のため、今まさに充分かつ具体的な議論を深めていく段階にあると考え、教育にはしっかりとした予算措置が必要との立場で伺います。</p> | |
| 1 公立幼稚園の現状（園数、児童数、共働き家庭やひとり親の利用状況、トレンドや政策動向、地域の実情等）を伺う。 | |
| 2 公立幼稚園の申込み見込みについて | |
| 3 沢地・旭ヶ丘・大場・南の各公立幼稚園における定員割れの現状について | |
| 4 三島市の幼児教育における特徴的な取り組み実績や成果について | |